



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社新日本科学
 コード番号 2395 URL <http://www.snbl.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 永田 良一
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役CFO (氏名) 二反田 真二 TEL 03 (5565) 6216
 四半期報告書提出予定日 2019年11月8日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	6,389	△28.1	1,078	—	1,258	42.1	877	△3.8
2019年3月期第2四半期	8,880	17.6	△137	—	885	—	912	—

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 △7,225百万円 (-%) 2019年3月期第2四半期 6,668百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	21.07	—
2019年3月期第2四半期	21.91	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	44,268	21,129	47.4	504.05
2019年3月期	54,329	28,477	52.3	682.38

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 20,984百万円 2019年3月期 28,408百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,468	△7.6	1,800	116.9	2,000	23.9	1,400	△28.2	33.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	41,632,400株	2019年3月期	41,632,400株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	308株	2019年3月期	308株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	41,632,092株	2019年3月期2Q	41,632,092株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については、〔添付資料〕4ページ（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

当社は、2019年11月21日（木）に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料につきましては、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

医薬品業界は、国内外において研究開発のスピードアップと効率化を目指したアウトソーシングが堅調です。このような顧客動向を受け、弊社は顧客から選ばれ続けるパートナーとなるべく、顧客ニーズを満たす迅速な対応とサービスの深化ならびに継続的な質の向上に注力しております。

こうした状況の中、当第2四半期連結累計期間における売上高は、米国前臨床事業及びSMO事業を譲渡したことにより、6,389百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて2,491百万円(28.1%)の減少となりましたが、事業譲渡による影響を除くと1,118百万円(21.2%)の増加となっております。

営業利益は1,078百万円(前第2四半期連結累計期間：営業損失137百万円)と黒字転換しました。また、経常利益は1,258百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて372百万円(42.1%)の増加となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は877百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて34百万円(3.8%)の減少となりました。

当社グループのセグメント別の経営成績は次のとおりであります。

① 前臨床事業

顧客満足度をさらに高めることに注力し、信頼と品質で選ばれる前臨床受託研究機関(CRO)を目指すとともに、再生医療開発支援等、新しい技術分野における受託サービスを強化しております。また、大手製薬企業からの包括的受託契約も獲得し、今年4月から業務を開始しております。豊富な受注残高を背景に稼働状況は堅調であり、内部業務プロセスの継続的な見直しと経費節減を合わせ、利益率が改善しております。

そうした中で、売上高は、米国前臨床事業を譲渡したことにより5,718百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて1,973百万円(25.7%)の減少となりましたが、営業利益は、1,412百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて1,334百万円(1725.0%)の増加となりました。

② 臨床事業

SMO事業譲渡によりグループ内の業務の集約を図る一方、米国の臨床CROであるPharmaceutical Product Development LLC(米国ノースカロライナ州；PPD社)との臨床事業における合弁会社、株式会社新日本科学PPD(持分法適用会社)を通じ、グローバル治験(国際共同治験)に対応べく盤石な組織体制の構築を進めております。加えて、当社子会社の株式会社CLINICAL STUDY SUPPORT(名古屋市；CSS社)を中心に臨床研究全般を幅広く支援するクリニカルリサーチ事業を推進しており、PPD社のグループ会社であるEvidera社とのパートナーシップ契約に基づくグローバル展開を行うなど、リアルワールドデータを活用したクリニカルリサーチ事業の強化を図っております。

そうした中で、売上高は、287百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて510百万円(64.0%)の減少となり、営業損失は0百万円(前第2四半期連結累計期間：営業利益10百万円)となりました。なお、持分法適用会社の利益は、経常利益として計上しております。

③ トランスレーショナルリサーチ事業(TR事業)

経鼻投与基盤技術(Nasal Delivery System: NDS)を応用した従来型の薬物吸収フィージビリティ試験や自社での製剤研究結果に基づいて、新規事業化を進めており、候補化合物を選定しております。併せて、安価で的確な鼻内部位への送達を実現すべく、新規デバイスの開発も進んでいます。また、NDSを応用した経鼻偏頭痛薬の開発会社として当社が設立したSatsuma Pharmaceuticals, Inc.(米国カリフォルニア州；Satsuma社)は、第I相臨床試験で良好な結果を得て、本年9月には米国ナスダック市場に上場し、現在、第III相臨床試験を実施中です。

また、NDSを用いた従来型の薬物吸収フィージビリティ試験や自社での製剤研究結果に基づいて、新規事業化を企画中で、候補化合物を選定しております。

一方、NDSを応用した鼻から脳へと薬物を送達させる技術(Nose-to-Brain送達技術)が進展中です。本技術研究では、薬物を能動的に中枢へ移行させるメカニズムを解析しております。現在、薬物の脳移行イメージングを研究中で、大手製薬企業との共同研究も順調に進んでおり、脳移行解析をさらに深化させています。

そうした中で、売上高は0百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて7百万円（94.0%）の減少となり、営業損失は189百万円（前第2四半期連結累計期間：営業損失134百万円）となりました。

④ メディポリス事業

環境に配慮する社会的事業として地熱発電事業、自然と健康をテーマにした指宿ベイヒルズHOTEL&SPAの運営などを行っております。

発電事業は、再生可能エネルギーの固定価格買取制度を利用しており、地球温暖化防止、純国産エネルギーの創出推進という我が国のエネルギー政策をうけて、1,500kw級のバイナリー型地熱発電所を稼働しております。

ホテル事業は、丘の上から錦江湾と大隅半島を望む素晴らしい眺望と豊富な温泉を利用した砂蒸し風呂や森の中の露天風呂などの各種スパ施設のほか、鉄板焼き“道（みち）”やフレンチレストラン“セレステ”が好評です。

そうした中で、売上高509百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて42百万円（9.1%）の増加となり、営業損失は18百万円（前第2四半期連結累計期間：営業損失72百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産、負債、純資産の状況に関する分析）

当第2四半期連結累計期間における前連結会計年度末からの財政状態の変動は、以下のとおりとなりました。

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、固定資産の投資有価証券の時価評価額が減少したことなどにより前連結会計年度末に比べ10,060百万円（18.5%）減少し、44,268百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ224百万円（1.9%）減少して11,442百万円となりました。固定資産は、前連結会計年度末に比べ9,835百万円（23.1%）減少して32,826百万円となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べ2,712百万円（10.5%）減少し、23,139百万円となりました。流動負債は、短期借入金が増加したことなどにより前連結会計年度末に比べ5,668百万円（31.9%）減少して12,099百万円となりました。固定負債は、繰延税金負債が減少し、長期借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ2,956百万円（36.6%）増加して11,039百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益を877百万円計上し、上述のとおり投資有価証券の時価評価額が減少したこと、その他有価証券評価差額金が7,994百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ7,348百万円（25.8%）減少し、21,129百万円となりました。

（キャッシュ・フローの状況に関する分析）

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は前連結会計年度末に比べて515百万円（10.0%）減少して、4,619百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は1,331百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて95百万円（7.7%）の増加となりました。

主な内訳は、税金等調整前四半期純利益1,252百万円、減価償却費563百万円、売掛債権の減少額353百万円及びたな卸資産の増加額646百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は510百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて93百万円（22.5%）の増加となりました。

主な内訳は、有形固定資産の取得による支出468百万円、投資有価証券の取得による支出331百万円及び貸付金の回収による収入367百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1,313百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて814百万円（163.2%）の増加となりました。

主な内訳は、短期借入金の減少額6,420百万円、長期借入による収入7,330百万円及び長期借入の返済による支出1,989百万円であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

前臨床事業は、中長期的な視点で国内外の顧客からの要望に対して、確実に応えられる体制構築に取り組んでおります。再生医療分野における最新装置を導入しており、他施設では実施困難な案件を受託できております。また、今年4月には、大手製薬企業から創薬プロセスの一部業務の包括契約の受託に成功しました。今後も効率的かつ効果的に各種実験を適切なタイミングで行えるオンリーワンの事業価値を継続して提供してまいります。

海外顧客からの引き合いが活発に推移しており、グローバルな大手製薬企業から継続的な受注に成功しております。この20年間、米国前臨床事業運営で培ったノウハウと米国での勤務経験を積んだ人材資産を活用して、海外顧客からの受託拡大に注力しております。

臨床事業は、PPD社との合弁会社である株式会社新日本科学PPDを通じ、国内におけるグローバル治験を主体に受託サービスの拡充を積極的に展開しております。加えて、当社子会社のCSS社を中心に臨床研究全般を幅広く支援するクリニカルリサーチ事業を推進しており、特にPPD社のグループ会社であるEvidera社とのパートナーシップ契約に基づくグローバル展開を行うなど、リアルワールドデータを活用したクリニカルリサーチ事業の強化を図っております。

TR事業は、当社の独自の経鼻投与基盤技術であるNDSを用いた既存薬剤の投与経路変更による医薬品開発など、パートナー企業とのアライアンス構築を継続して進めており、加えて自社開発を可能にする新規事業スキームが視野に入っております。また、当社とのライセンス契約を基盤に外部資金を活用して米国に設立したSatsuma社が米国ナスダック市場に上場し、その開発品の第Ⅲ相臨床試験が開始され、上市に向けて着実に前進しております。

一方、NDSの新たな応用領域として、Nose-to-Brain送達技術の研究開発に注力しております。中枢疾患におけるアンメットメディカルニーズは非常に高く、その治療薬開発は製薬企業における重点注力領域ともなっています。血液-脳関門（Blood Brain Barrier）の存在により、静脈注射でも脳内に送達できない薬物について、Nose-to-Brain送達技術の応用が期待されています。現在、社内研究に加えて、複数の大手製薬企業との共同研究契約やフィージビリティ試験契約が締結されております。

メディポリス事業は、従来の発電事業に加えて、地熱資源量の把握のための調査事業費補助金制度を利用した新規地熱発電の可能性を検討しております。また、シラスウナギの人工種苗生産は、2017年11月に閉鎖循環システムによる生産に世界で初めて成功しており、今期は大量生産と事業化に向けた展開の一環として、新たに沖永良部島（鹿児島県和泊町）に天然海水を利用した研究施設を稼働させました。

その他、メディポリス指宿の資源を最大限活用すべく、様々な取組みを検討してまいります。

連結業績予想

2019年度通期の連結業績見通しは、売上高14,468百万円、営業利益1,800百万円、経常利益2,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益1,400百万円を見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,141,517	4,626,168
受取手形及び売掛金	1,986,807	1,629,272
たな卸資産	3,599,998	4,219,460
その他	1,011,249	1,038,691
貸倒引当金	△73,145	△71,468
流動資産合計	11,666,428	11,442,124
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,212,646	7,894,459
土地	2,804,820	2,788,372
その他(純額)	2,669,183	2,864,756
有形固定資産合計	13,686,650	13,547,588
無形固定資産	92,529	209,512
投資その他の資産		
投資有価証券	27,618,673	18,185,224
投資その他の資産	1,266,847	886,574
貸倒引当金	△2,108	△2,049
投資その他の資産合計	28,883,413	19,069,749
固定資産合計	42,662,593	32,826,850
資産合計	54,329,021	44,268,974

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	36,572	75,973
短期借入金	11,348,192	5,754,681
未払法人税等	69,277	265,388
前受金	4,204,392	4,495,042
事業整理損失引当金	16,465	15,783
その他	2,092,683	1,492,548
流動負債合計	17,767,584	12,099,417
固定負債		
長期借入金	3,894,755	8,408,247
リース債務	708,490	736,795
その他	3,480,371	1,894,739
固定負債合計	8,083,617	11,039,781
負債合計	25,851,202	23,139,198
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,679,070	9,679,070
資本剰余金	10,362,434	5,196,804
利益剰余金	△10,082,616	△4,162,131
自己株式	△170	△170
株主資本合計	9,958,718	10,713,573
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,519,614	12,525,407
為替換算調整勘定	△2,069,340	△2,254,272
その他の包括利益累計額合計	18,450,274	10,271,134
非支配株主持分	68,826	145,067
純資産合計	28,477,819	21,129,775
負債純資産合計	54,329,021	44,268,974

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	8,880,521	6,389,274
売上原価	5,912,742	2,894,916
売上総利益	2,967,778	3,494,358
販売費及び一般管理費	3,105,025	2,415,775
営業利益又は営業損失(△)	△137,246	1,078,583
営業外収益		
受取利息	9,600	6,010
為替差益	1,174,832	—
持分法による投資利益	42,948	216,707
受取賃貸料	31,791	24,374
受取保険金	—	344,695
その他	103,721	45,023
営業外収益合計	1,362,894	636,810
営業外費用		
支払利息	182,711	123,857
為替差損	—	320,672
支払手数料	148,030	9,533
その他	9,078	2,654
営業外費用合計	339,820	456,718
経常利益	885,827	1,258,675
特別利益		
固定資産売却益	250	794
特別利益合計	250	794
特別損失		
固定資産除却損	24,133	4,217
減損損失	1,000	2,476
関係会社株式売却損	231,841	—
特別損失合計	256,974	6,693
税金等調整前四半期純利益	629,103	1,252,776
法人税、住民税及び事業税	42,561	187,481
法人税等調整額	△337,218	112,493
法人税等合計	△294,656	299,975
四半期純利益	923,760	952,801
非支配株主に帰属する四半期純利益	11,525	75,550
親会社株主に帰属する四半期純利益	912,235	877,251

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	923,760	952,801
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,905,475	△7,994,207
為替換算調整勘定	△1,158,584	△184,511
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,954	—
その他の包括利益合計	5,744,936	△8,178,718
四半期包括利益	6,668,696	△7,225,917
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,656,861	△7,301,887
非支配株主に係る四半期包括利益	11,835	75,970

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	629,103	1,252,776
減価償却費	788,722	563,617
減損損失	1,000	2,476
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△5,650	342
受取利息及び受取配当金	△9,600	△6,010
支払利息	182,711	123,857
為替差損益(△は益)	△1,144,443	302,845
持分法による投資損益(△は益)	△42,948	△216,707
固定資産売却損益(△は益)	△250	△794
固定資産除却損	24,133	4,217
関係会社株式売却損益(△は益)	231,841	—
売上債権の増減額(△は増加)	454,799	353,094
たな卸資産の増減額(△は増加)	△547,783	△646,149
前受金の増減額(△は減少)	1,022,713	294,310
仕入債務の増減額(△は減少)	195,213	39,500
未払金の増減額(△は減少)	92,033	△71,511
未払費用の増減額(△は減少)	△193,485	△425,900
その他	△146,085	△32,824
小計	1,532,024	1,537,139
利息及び配当金の受取額	10,132	3,141
利息の支払額	△173,786	△181,806
法人税等の支払額	△132,700	△27,256
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,235,670	1,331,218
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△14,120	—
定期預金の払戻による収入	14,635	—
有形固定資産の取得による支出	△409,769	△468,457
無形固定資産の取得による支出	△29,788	△77,634
有形固定資産の売却による収入	250	794
投資有価証券の取得による支出	—	△331,082
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	8,056	—
貸付金の回収による収入	5,321	367,650
その他	8,983	△1,560
投資活動によるキャッシュ・フロー	△416,429	△510,289
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	2,375,000	△6,420,000
長期借入れによる収入	10,000	7,330,000
長期借入金の返済による支出	△2,719,761	△1,989,243
配当金の支払額	—	△124,896
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△164,309	△111,848
その他	—	2,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△499,071	△1,313,488
現金及び現金同等物に係る換算差額	61,818	△22,588
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	381,987	△515,147
現金及び現金同等物の期首残高	5,294,076	5,134,734
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,676,064	4,619,587

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

資本準備金の額の減少及び剰余金の処分の内容

- （1）会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金の全部（10,361,470千円）を減少させ、その他資本剰余金に振り替えました。
- （2）会社法第452条の規定に基づき、上記資本準備金振替後のその他資本剰余金の一部（5,043,233千円）を繰越利益剰余金に振り替えました。

（セグメント情報）

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	前臨床 事業	臨床 事業	トランス レーショナル リサーチ事業	メディ ポリス事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	7,691,253	723,660	8,112	452,011	8,875,038	5,483	8,880,521	-	8,880,521
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	74,292	200	14,585	89,077	52,049	141,127	△141,127	-
計	7,691,253	797,952	8,312	466,596	8,964,115	57,532	9,021,648	△141,127	8,880,521
セグメント利益又は 損失(△)	77,380	10,836	△134,539	△72,580	△118,903	15,392	△103,510	△33,736	△137,246

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△33,736千円は、セグメント間取引消去12,484千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△46,220千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整をおこなっております。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	前臨床 事業	臨床 事業	トランス レーショナル リサーチ事業	メディ ポリス事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	5,710,978	162,592	502	490,014	6,364,087	25,187	6,389,274	-	6,389,274
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	7,165	124,596	-	19,089	150,851	46,844	197,695	△197,695	-
計	5,718,143	287,188	502	509,104	6,514,938	72,031	6,586,970	△197,695	6,389,274
セグメント利益又は 損失(△)	1,412,232	△144	△189,652	△18,685	1,203,749	△38,957	1,164,791	△86,208	1,078,583

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△86,208千円は、セグメント間取引消去40,708千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△126,916千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。